

畑作構造転換事業

【3, 024百万円】

対策のポイント

ばれいしょ、てん菜等について、畑作営農の大規模化に対応するため、省力作業体系の導入や生産性向上技術の導入、種ばれいしょの生産性向上等を支援します。

<背景／課題>

- ・大規模畑作地帯では、3～4品目による輪作が営まれているが、離農等による規模拡大が進む中、労働負担が大きいばれいしょやてん菜の作業が競合し、輪作の乱れ、病害リスクの拡大や加工用ばれいしょの需要増加、さらには、近年の多雨傾向から湿害による減収への対応が喫緊の課題です。
- ・このため、ばれいしょ・てん菜の省力化、単収向上のための新技術の導入、需要が拡大している用途等への転換のための輪作年限の延長、種ばれいしょの生産性の向上等の取組を進める必要があります。

政策目標

- 需要のあるばれいしょ用途への10%以上の転換
- ジャガイモシストセンチュウ抵抗性品種の作付割合を50%以上とする
- 労働時間の10%以上の削減

<主な内容>

ばれいしょやてん菜など畑作産地の生産性向上等を図るため、労働力不足に対応しつつ、革新的生産技術や作業体系を導入する以下の取組を集中的に支援します。

(1) 省力化等の推進

省力作業機械等の導入、土壌・土層改良

(2) 新技術の導入

湿害対策、病虫害抵抗性品種の導入、産地技術講習会の開催

(3) 用途転換等の促進

輪作年限の延長、ばれいしょ・てん菜に係る適期作業の推進

(4) 種ばれいしょ生産力向上

産地育成、品質向上技術の導入

補助率：定額、1／2以内
事業実施主体：都道府県、市町村、農業者の組織する団体等

[お問い合わせ先：政策統括官付地域作物課（03－6744－2115）]

畑作構造転換事業【平成29年度補正予算額 3,024 百万円】

ばれいしょ、てん菜等について、畑作営農の大規模化に対応するため、省力作業体系の導入や生産性向上技術の導入、種ばれいしょの生産性向上等を支援します。

畑作産地の課題

- 大規模畑作地帯では、3～4品目による輪作が営まれているが、離農等による規模拡大が進む中、労働負担が大きいばれいしょやてん菜の作業が競合し、輪作の乱れ、病害リスクの拡大や加工用ばれいしょの需要増加、さらには、近年の多雨傾向から湿害による減収への対応が喫緊の課題。
- このため、ばれいしょ・てん菜の省力化、単収向上のための新技術の導入、需要が拡大している用途等への転換のための輪作年限の延長、種ばれいしょの生産性の向上等の取組を進める必要。

対策の内容

以下の取組により、畑作産地の生産性向上等を推進

① 省力化等の推進

・ 省力作業機械等の導入

（ばれいしょ、種ばれいしょ及びてん菜生産の省力化、農地の排水性改良、輪作年限の延長（豆類の導入））

・ 土壌・土層改良

（畑地の生産性向上）

② 新技術の導入

・ 湿害対策、病虫害抵抗性品種の導入

・ 産地技術講習会等の開催（技術講習等）

③ 用途転換等の促進

・ 輪作年限の延長（豆類・緑肥導入）

・ ばれいしょ・てん菜に係る適期作業の推進（基幹作業の作業受託組織への外部化）

④ 種ばれいしょ生産力向上（産地育成・品質向上技術の導入）